

I. 沿革と概要

1. 沿革

東京大学生産技術研究所は、昭和 24 年 5 月 31 日公布の国立学校設置法に基づき、生産に関する技術的諸問題の科学的総合研究と、研究成果の実用化試験を行なうことを目的として同日付で千葉県千葉市に設置された。

その後、研究所の東京移転が実現し、昭和 37 年度より東京都港区六本木 7-22-1 に本部および各研究部位置を変更した。なお、千葉市には、千葉実験所として 101,490 m² (約 30,700 坪) が同敷地内に設けられた。

部門数は、設立当初 15 部門で、以後昭和 25 年度に 10 部門、26 年度に 10 部門、計 35 部門となり、その後、部門増として、32 年度 1 部門、35 年度 1 部門、36 年度 2 部門、37 年度 2 部門、38 年度 1 部門が認められたが、39 年 4 月 1 日宇宙航空研究所設置に伴ない、39 年度中に 2 部門を同研究所に移し、40 年度に 1 部門、41 年度に 1 部門増が認められ、さらに 42 年度には 1 部門が追加され、現在 43 部門となっている。

本研究所は次表に示すような 5 部に分かれ、それぞれの部において表示されたような専門分野を担当している。

所長は、瀬藤象二、兼重寛九郎、星合正治、谷 安正、福田武雄、藤高周平、岡本舜三に続いて、昭和 42 年 3 月 31 日より菊池眞一が就任している。

第 1 部(基礎)——応用数学・応用光学・音響工学・固体材料学・流体物理学・応用電子物理学・放射線工学・材料力学・応用弾性学・動的材料強弱学

第 2 部(機械・船舶)——機械力学・機構学・伝熱工学・熱原動機学・流体機械学・化学機械学・切削工作学・非切削工学・精密加工学・溶接工学・板金および船体構造学・船体運動学・耐震機械構造学

第 3 部(電力・通信)——電気回路学・電力機器学・電力工学・電気制御工学・電子管工学・通信機器学・超短波工学・応用電子工学・電子演算工学・マイクロ波工学・情報処理工学

第 4 部(化学・冶金)——無機工業化学・応用電気化学および光化学・有機工業化学第一・有機工業化学第二・有機工業化学第三・化学工学・無機工業分析学・有機工業分析学・鉄鋼製錬工学・非鉄金属製錬工学・金属加工学・金属材料学・放射性同位元素工学

第 5 部(土木・建築)——土質工学・土木構造学・交通路工学・水工学・測量学・建築構造学・建築環境学・建築装備学・建築生産学・生産施設防災工学・建築配置および機能学・生産技術史

2. 研究所の位置・敷地・建物・配置図

A. 東京大学生産技術研究所（麻布庁舎）

a. 位 置

東京都港区六本木7丁目22番1号

国電信濃町駅下車，都電33番線 竜土町下車，西南へ約100m

b. 敷地・建物（面積）・配置図（凸版参照）

敷地総面積 48,122 m² (14,557 坪 ただし物性研と共用)

建物数 本館1棟，別棟13棟

建物延面積 27,428 m² (8,297 坪)

本 館 24,926 m² (7,540 坪)

別 棟 2,502 m² (757 坪)

本館面積の使用区分は次表の通りである

	地階 (m ²)	1階 (m ²)	2階 (m ²)	3階 (m ²)	屋上 (m ²)	計 (m ²)
第1部	871	1,880	916	686		4,353
第2部	1,954	817	945	930		4,646
第3部	418	998	881	641		2,938
第4部	632	1,556	1,541	1,149		4,878
第5部	1,500	1,048	795	795		4,138
試作工場	184					184
事務部	588	727	1,897	486		3,698
共通					91	91
計	6,147	7,026	6,975	4,687	91	24,926

c. 主な建物とその用途

建物名	構造	利用面積 (m ²)	所属部	主 な 用 途
本 館	鉄筋コンクリート 地下1，地上3階	24,926	各 部	所長室，会議室，各部研究室，実験室，試作工場，居室，事務室，図書室，電話室，受電室等
別 棟1	鉄骨スレート	355	第1部	材料実験室
” 2	鉄筋コンクリート 平屋建	387	第2部	動力実験棟(自動車，内燃機関，ガスタービン，水力機械)
” 3	鉄骨平屋建	142	第3部	高電圧実験室
” 4	”	179	第3部 第4部	暖房実験室，発酵実験室
” 5	鉄筋コンクリート 平屋建	179	第4部	RI 実験室
” 6	ブロック平屋建	113	第4部 第5部	高圧化学実験室，サッシ実験室
” 7	”	186	第5部	音響実験室(無響室，残響室，測定室)
” 8	”	48	”	送風機

建物名	構造	利用面積 (m ²)	所属部	主な用途
〃 9	鉄筋コンクリート平屋建	52	第5部	防火実験室(地下)
〃 10	〃	102	〃	床版試験室
〃 11	鉄骨平屋建	29	事務部	門衛所
〃 12	鉄筋造平屋建	664	試作工場	試作工場
〃 13	〃	66	第3部	応用電磁流体実験室

d. 水道・電気・ガス・電話

水道は現在都営水道ならびに自家給水を行っており、使用量は月平均 13,000 m³ である。

電気は東京電力株式会社と自家用の契約をし第 1 変電所 400 kVA, 第 2 変電所 600 kVA, 屋外変電所 435 kVA の設備を有し、各部に送電している。電力使用量は月平均 100,000 kWh である。

ガスは東京瓦斯株式会社と契約、消費量月平均 24,000 m³ である。

電話は青山局に 50 回線加入し、私設交換装置は A 型自動交換機で 500 回線の容量を持ち、物性研究所と共用している。なおそのうち本所は内線 300 回線を使用している。

B. 生産技術研究所千葉実験所

a. 位置

千葉市弥生町 1 番 8 号

国電西千葉駅東口下車、約 250 m

b. 敷地・建物(面積)・配置図 (凸版参照)

敷地面積 約 101,490 m² (約 30,700 坪)

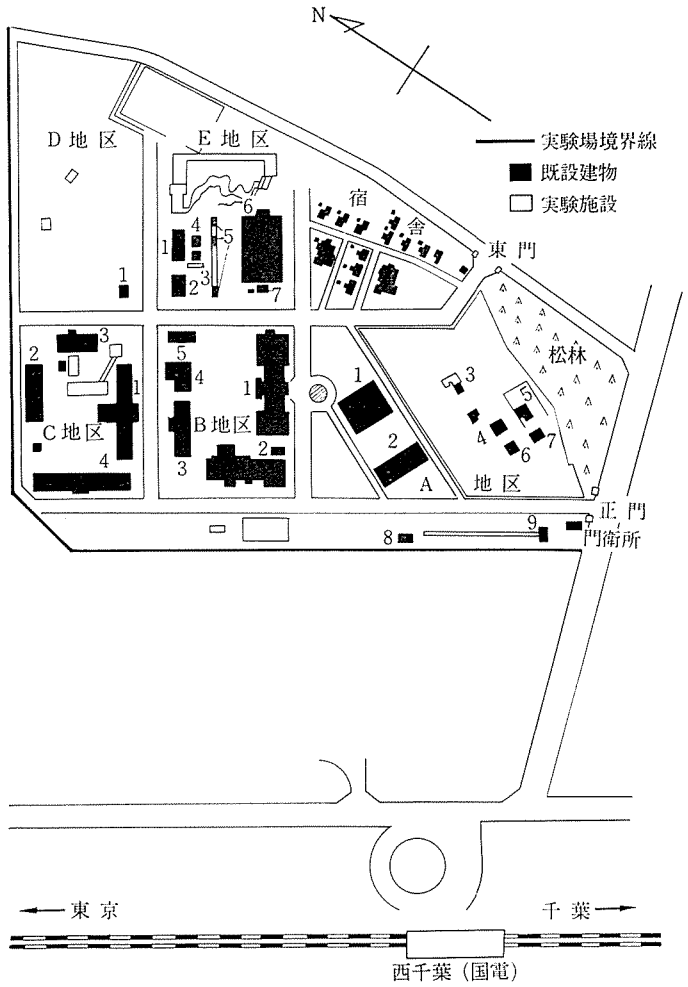
建物数 26 計 9,876 m²

c. 主な建物とその用途

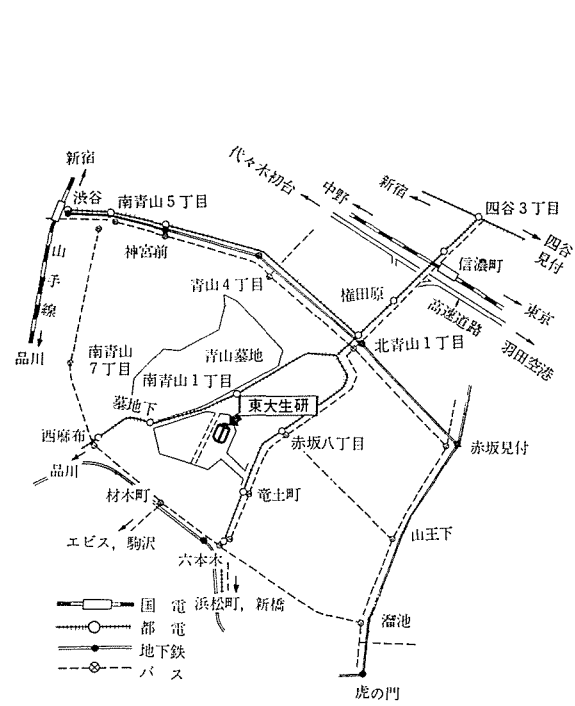
下表の通りである。

建物所在 地区番号	構造	延面積 (m ²)	主な用途	旧名称
A 1	鉄骨スレート・平屋建	476	植村研, 山田研, 岡本研, 大井研, 鈴木研	試験工場
〃 2	〃	352	大型振動台実験室	
〃 3	鉄筋コンクリート	13	爆発実験装置掩蓋	
〃 4	〃	39	計測室	
〃 5	〃	39	小型テストスタンド	
〃 6	〃	40	推薬製造室	
〃 7	鉄骨・平屋建	48	工作室	
〃 8	ブロック造・平屋建	19	危険物倉庫	
〃 9	ブロック造平屋建	54	レーザおよびミリ波実験施設	

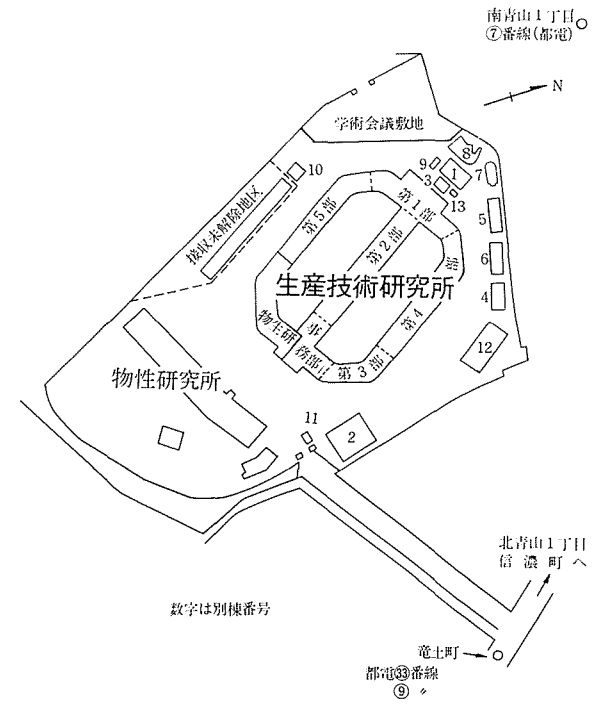
建物所在 地区番号	構造	延面積 (m ²)	主な用途	旧名称
B	1 木造・二階建	1,291	江上研, 岡本研, 久保研, 北川研, 山田研, 事務室	東 10 号館
"	2 木造・二階建	1,017	岡本研, 北川研, 山田研, 丸安研, 三木研, 河村研	東 9 号館
"	3 木造・三階建	719	倉庫	" 8 "
"	4 木造・二階建	511	河添研, 野崎研	" 7 "
"	5 木造・平屋建	194	菊池研, 野崎研	" 11 "
C	1 木造・二階建	1,208	池辺研, 館・中根研	" 6 "
"	2 木造・平家建	356	館・中根研	" 4 "
"	3 鉄骨, 鉄筋コンクリート平屋建	317	"	特殊吹精実験室
"	4 木造・二階建	1,215	宿舍	東 5 号館
D	1 鉄骨, スレート平屋建	38	受電室	
E	1 木造・平屋建	194	野崎研, 井口研	" 12 "
"	2 "	129	ポンプ室	
"	3 ブロック造・平屋建	38	野崎研	
"	4 "	63	"	
"	5 鉄骨, スレート平屋建	26	2次元造波水槽測定室	
"	6 鉄骨・平屋建	1,349	津波高潮水槽実験室	
"	7 ブロック造・平屋建	35	同上観測室	



東京大学生産技術研究所千葉実験所配置図

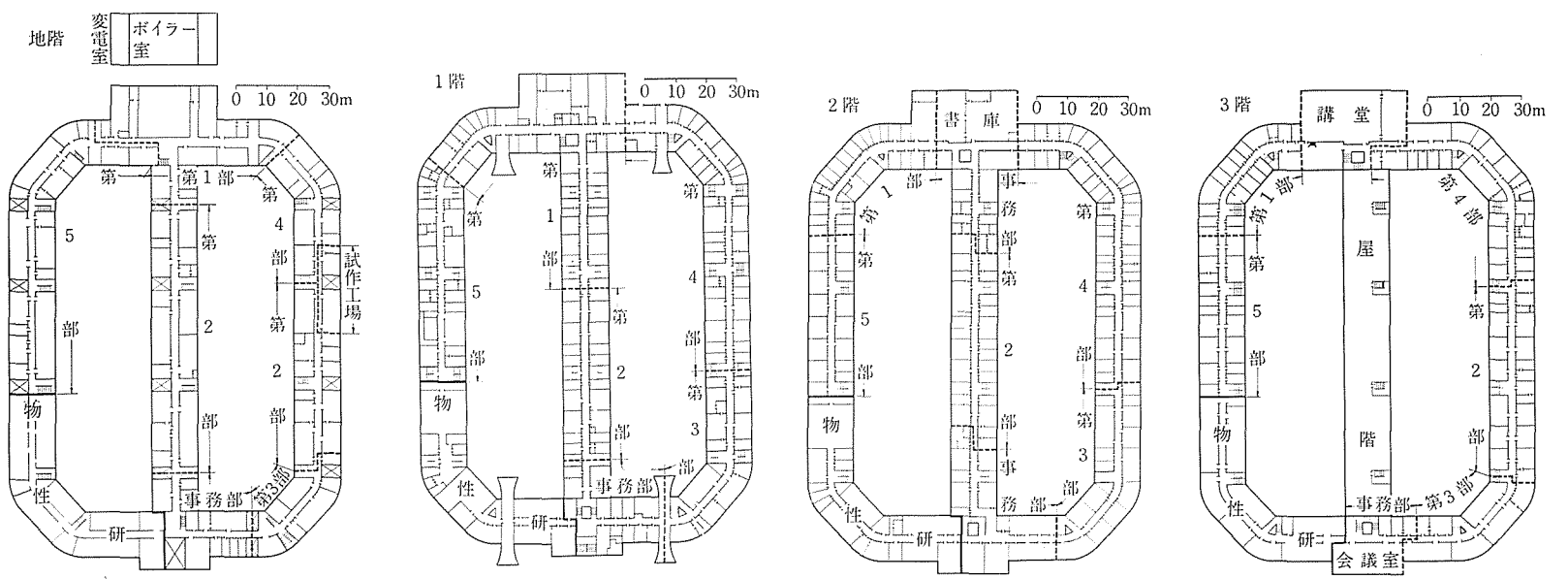


所在地図



配置略図

東京大学生産技術研究所 (麻布庁舎)



各階平面図